

廃棄物関係ガイドライン第二版 正誤表
(平成 25 年 3 月 第 2 版 製本版からの修正箇所)

該当箇所		誤		正	
第一部 汚染状況 調査方法 ガイドラ イン	P.2	⑤ 産業廃棄物処理施設である焼却施設から生じたばいじん及び焼却灰その他の燃え殻		⑤ 産業廃棄物処理施設である焼却施設から生じたばいじん及び焼却灰その他の燃え殻【(次に掲げるものに限る)】	
第一部 汚染状況 調査方法 ガイドラ イン	P.22	4.3.1.3 分析の方法 測定方法、測定機器の機種名、検出下限値、測定容器等を記載する。		4.3.1.3 分析の方法 測定方法、測定機器の機種名、検出下限値、測定容器等を記載する。	
第一部 汚染状況 調査方法 ガイドラ イン	特措法 第 16 条の調 査義務 の免除 につい て(4 ページ 目)	第 8 条第 1 項 第 1 号	公共下水道(脱水汚泥を 排出)	第 8 条第 1 項 第 1 号	公共下水道【(福島県 又は栃木県)】
		第 8 条第 1 項 第 2 号	公共下水道(ばいじん・ 燃え殻排出)	第 8 条第 1 項 第 2 号	公共下水道【(茨城県、 群馬県、埼玉県、千葉 県、東京都又は神奈川 県)※】
		第 8 条第 2 項 第 1 号	流域下水道(脱水汚泥を 排出)	第 8 条第 2 項 第 1 号	流域下水道【(福島県 又は栃木県)】
		第 8 条第 2 項 第 2 号	流域下水道(ばいじん・ 燃え殻排出)	第 8 条第 2 項 第 2 号	流域下水道【(茨城県、 群馬県、埼玉県、千葉 県、東京都又は神奈川 県)※】
【※ 焼却設備を用いて焼却したものを 排出】					
第二部 特定一般 廃棄物・ 特定産業 廃棄物関 係ガイド ライン	P.29	図 4-7 層状埋立てのイメージ図 (下部土壌層の厚みの記載) 50cm 以上		図 4-7 層状埋立てのイメージ図 (下部土壌層の厚みの記載) 【おおむね】50cm 以上	

<p>第三部 指定廃棄物関係ガイドライン</p>	<p>P.33</p>	<p>(表 2-4 を差し替え) ・ ケース分けの追加 ・ 記載誤りの訂正</p>	
<p>第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン</p>	<p>P.2</p>	<p>空間線量計校正については、日本工業規格（シンチレーション式サーベイメータの場合は JIS Z4511、JIS Z4333、GM サーベイメータの場合は JIS Z4329、JIS Z4504）に準拠して行うこと※1。</p> <p>※1：計量法に基づく登録事業者で校正することができる。</p>	<p>空間線量計校正については、日本工業規格（シンチレーション式サーベイメータの場合は JIS Z4511、JIS Z4333、GM サーベイメータの場合は JIS Z4329、JIS Z4504）に準拠して行うこと※1。</p> <p>※1：計量法に基づく登録事業者で校正すること【も】できる。</p>
<p>第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン</p>	<p>P.3</p>	<p>上記のような校正が困難な場合、校正を代替する現場での保守点検として、別に用意した基準となる校正済みのエネルギー補償型のシンチレーション式サーベイメータと同時に同じ場所（測定機器を実際に使用する地域と同程度の線量の場所）を5回程度測定し、測定値の平均に対する基準値の平均の比（基準値の平均÷測定値の平均）を確認・記録した上で、実際の測定値にその比を乗じたものを正しい測定値とすることも可能である（ただし、校正済みの基準の測定機器との測定値の平均の比が1より20%※2以上異なる場合、その測定機器には十分な信頼性がないものとみなす）。</p> <p>もしくは、指示値にどれだけの差があるかを確認・記録した上で、実際の測定値からその差分の平均値を加減したものを正しい測定値とすることも可能である（ただし、校正済みの基準の測定機器との測定値の差の平均が20%※2以上ある場合、その測定機器には十分な信頼性がないものとみなす）。</p>	<p>上記のような校正が困難な場合、【対象機器が必要な性能を満たすことを確認する手段として、】校正を代替する現場での保守点検として、別に用意した基準となる校正済みのエネルギー補償型のシンチレーション式サーベイメータと同時に同じ場所（測定機器を実際に使用する地域と同程度の線量の場所）を5回程度測定し、測定値の平均に対する基準値の平均の比（基準値の平均÷測定値の平均）を確認・記録した上で、実際の測定値にその比を乗じたものを正しい測定値とすることも可能である（ただし、校正済みの基準の測定機器との測定値の平均の比が1より20%※2以上異なる場合、その測定機器には十分な信頼性がないものとみなす）。</p> <p>【また、】もしくは、【実際に使用する地域と同程度の線量の場所で行う場合には、】指示値にどれだけの差があるかを確認・記録した上で、実際の測定値からその差分の平均値を加減したものを正しい測定値とすることも可能である（ただし、校正済みの基準の測定機器との測定値の差の平均が20%※2以上ある場合、その測定機器には十分な信頼性がないものとみなす）。</p>

第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン	P.8 P.52	表面線量、放射能濃度(判明している場合に限る)	表面線量【率】、放射能濃度(判明している場合に限る)														
第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン	P.11	<table border="1"> <tr> <td>測定点⑤ (バックグラウンド)</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.14</td> <td>0.12</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> </table>	測定点⑤ (バックグラウンド)	0.13	0.13	0.14	0.12	0.13	0.13	<table border="1"> <tr> <td>測定点⑤ (バックグラウンド)</td> <td>0.13</td> <td>0.17</td> <td>0.16</td> <td>0.14</td> <td>0.15</td> <td>0.15</td> </tr> </table>	測定点⑤ (バックグラウンド)	0.13	0.17	0.16	0.14	0.15	0.15
測定点⑤ (バックグラウンド)	0.13	0.13	0.14	0.12	0.13	0.13											
測定点⑤ (バックグラウンド)	0.13	0.17	0.16	0.14	0.15	0.15											
第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン	P.33, P.34	(右記を追加)	【備考3：濃度限度に対する割合の合計が1を超える場合は、第3章3.2の方法により、最大着地濃度地点での濃度等と比較することにより、排出口からの周辺環境への影響を判断する。】														
第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン	P.37, P.41, P.42	(密閉型の破砕施設における放射能濃度の単位) Bq/m ³	(密閉型の破砕施設における放射能濃度の単位) Bq/m ³ 【(N)】														
第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン	P.38	備考3:体積の単位は開放型の場合は20℃、101.3kPa、湿りガス(出典:有害大気汚染物質測定方法マニュアル(平成23年3月改訂))、密閉型の場合は標準状態(20℃、101.3kPa、乾きガス)とする。	備考3:体積の単位は開放型の場合は20℃、101.3kPa、湿りガス(出典:有害大気汚染物質測定方法マニュアル(平成23年3月改訂))、密閉型の場合は標準状態(【0℃】20℃、101.3kPa、乾きガス)とする。														
第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン	P.41, P.42	(右記を追加)	【備考3:濃度限度に対する割合の合計が1を超える場合は、第3章3.2の方法に準拠し、施設周辺の敷地境界の四方で測定等することにより、破砕施設等からの周辺環境への影響を判断する。】														
第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン	P.47, P.48	(右記を追加)	【備考3：濃度限度に対する割合の合計が1を超える場合は、公共の水域について測定することにより、排水口からの周辺環境への影響を判断する。】														
第五部 放射能濃度等測定方法ガイドライン	P.67	<ul style="list-style-type: none"> ・JIS Z 4329(2004) 放射性表面汚染サーベイメータ ・JIS Z 4504(2008) 放射性表面汚染の測定方法—β線放出核種(最大エネルギー0.15MeV以上)及びα線放出核種 	<ul style="list-style-type: none"> ・JIS Z 4329(2004) 放射性表面汚染サーベイメータ ・JIS Z 4504(2008) 放射性表面汚染の測定方法—β線放出核種(最大エネルギー0.15MeV以上)及びα線放出核種 														

第六部 特定廃棄 物関係ガ イドライ ン	P.32	(表 2-4 を差し替え) ・ ケース分けの追加 ・ 記載誤りの訂正	
第六部 特定廃棄 物関係ガ イドライ ン	P.117	図 5-17 土壌層と層状埋立のイメージ図 (下部土壌層の厚みの記載) 50cm 以上	図 5-17 土壌層と層状埋立のイメージ図 (下部土壌層の厚みの記載) 【おおむね】 50cm 以上

<製本版（差し替え前）>

表 2-4 廃棄物の放射能濃度や施設の形状等に応じた遮へい措置と敷地境界の位置との関係
（追加線量：年間1ミリシーベルト以下）*1

平均放射能濃度 (Cs:Bq/kg)	廃棄物の山の大きさ (縦×横×高さ)	遮へい措置	追加線量が年間1mSv以下となる 敷地境界の位置(居住地区との離隔)						
			0m	1m	2m	4m	6m	8m	10m
～0.3万 (参考) ・容器の表面線量 率は約0.7 μSv/h 以下 *2	2m×2m×1m	なし		●					
		なし			●				
	5m×5m×2m	側面を逐次遮へい		●					
		側面を逐次遮へい		●					
		側面を逐次遮へい		●					
		側面を逐次遮へい			●				
上記すべての場合	30cm厚の覆土完了	●							
0.3万～0.8万 (参考) ・容器の表面線量 率は約0.7～1.8 μ Sv/h *2	2m×2m×1m	なし			●				
		側面を逐次遮へい		●					
	5m×5m×2m	なし					●		
		側面を逐次遮へい			●				
		側面を逐次遮へい				●			
		側面を逐次遮へい				●			
上記すべての場合	30cm厚の覆土完了	●							
0.8万～3万 ・容器の表面線量 率は約1.8～7.0 μ Sv/h *2	2m×2m×1m	なし				●			
		側面を逐次遮へい				●			
		30cm厚の覆土完了		●					
	5m×5m×2m	なし						●	
		側面を逐次遮へい				●			
	10m×10m×1m	側面を逐次遮へい					●		
		30cm厚の覆土完了		●					
	20m×20m×2m	側面を逐次遮へい						●	
		側面を逐次遮へい (覆土されていない面積が10m× 10mを超えない場合)					●		
		30cm厚の覆土完了		●					
		側面を逐次遮へい (覆土されていない面積が20m× 20mを超えない場合)						●	
	50m×50m×2m	側面を逐次遮へい (覆土されていない面積が10m× 10mを超えない場合)					●		
30cm厚の覆土完了			●						
40cm厚の覆土完了		●							
上記すべての場合	40cm厚の覆土完了	●							
	側面を逐次遮へい				●				
	50cm厚の覆土完了			●					
3万～10万 ・容器の表面線量 率は約7.0～23 μ Sv/h *2	2m×2m×1m	側面を逐次遮へい				●			
		50cm厚の覆土完了			●				
	5m×5m×2m	側面を逐次遮へい					●		
10m×10m×1m	50cm厚の覆土完了	●							
	50cm厚の覆土完了				●				
10万～25万 ・容器の表面線量 率は約 23～47 μSv/h *2	2m×2m×1m	側面を逐次遮へい					●		
		50cm厚の覆土完了			●				
	5m×5m×2m	側面を逐次遮へい						●	
10m×10m×1m	50cm厚の覆土完了					●			
25万～50万 ・容器の表面線量 率は約 47～115 μSv/h *2	2m×2m×1m	側面を逐次遮へい					●		
		50cm厚の覆土完了				●			
	10m×10m×1m	50cm厚の覆土完了						●	
50万～100万 ・容器の表面線量 率は約 115～230 μSv/h *2	2m×2m×1m	側面を逐次遮へい						●	
		50cm厚の覆土完了					●		

<Web 掲載版（差し替え後）>

表 2-4 廃棄物の放射能濃度や施設の形状等に応じた遮へい措置と敷地境界の位置との関係
(追加線量：年間1ミリシーベルト以下)*1

平均放射能濃度 (Cs:Bq/kg)	廃棄物の山の大きさ (縦×横×高さ)	遮へい措置	追加線量が年間1mSv以下となる 敷地境界の位置(居住地区との離隔)							
			0m	1m	2m	4m	6m	8m	10m	
～0.3万 (参考) ・容器の表面線量 率は約0.7 μSv/h 以下 *2	2m×2m×1m	なし		●						
	5m×5m×2m	なし				●				
		側面を逐次遮へい		●						
	10m×10m×1m	側面を逐次遮へい		●						
	20m×20m×2m	側面を逐次遮へい		●						
	50m×50m×2m	側面を逐次遮へい			●					
上記すべての場合	30cm厚の覆土完了		●							
0.3万～0.8万 (参考) ・容器の表面線量 率は約0.7～1.8 μ Sv/h *2	2m×2m×1m	なし			●					
	5m×5m×2m	側面を逐次遮へい		●						
		なし					●			
	10m×10m×1m	側面を逐次遮へい			●					
	20m×20m×2m	側面を逐次遮へい				●				
	50m×50m×2m	側面を逐次遮へい				●				
上記すべての場合	30cm厚の覆土完了		●							
0.8万～3万 ・容器の表面線量 率は約1.8～7.0 μ Sv/h *2	2m×2m×1m	なし				●				
		側面を逐次遮へい				●				
		30cm厚の覆土完了		●						
	5m×5m×2m	なし								●
		側面を逐次遮へい				●				
		30cm厚の覆土完了		●						
	10m×10m×1m	側面を逐次遮へい					●			
		30cm厚の覆土完了		●						
	20m×20m×2m	側面を逐次遮へい						●		
		側面を逐次遮へい (覆土されていない面積が10m× 10mを超えない場合)						●		
		30cm厚の覆土完了		●						
		側面を逐次遮へい (覆土されていない面積が20m× 20mを超えない場合)							●	
50m×50m×2m	側面を逐次遮へい (覆土されていない面積が10m× 10mを超えない場合)						●			
	30cm厚の覆土完了		●							
	上記すべての場合	40cm厚の覆土完了	●							
3万～10万 ・容器の表面線量 率は約7.0～23 μ Sv/h *2	2m×2m×1m	側面を逐次遮へい				●				
		50cm厚の覆土完了	●							
	5m×5m×2m	側面を逐次遮へい							●	
		50cm厚の覆土完了	●							
10m×10m×1m	50cm厚の覆土完了	●								
10万～25万 ・容器の表面線量 率は約 23～47 μSv/h *2	2m×2m×1m	側面を逐次遮へい					●			
		50cm厚の覆土完了		●						
	5m×5m×2m	側面を逐次遮へい							●	
		50cm厚の覆土完了		●						
10m×10m×1m	50cm厚の覆土完了		●							
25万～50万 ・容器の表面線量 率は約 47～115 μSv/h *2	2m×2m×1m	側面を逐次遮へい						●		
		50cm厚の覆土完了		●						
	5m×5m×2m	50cm厚の覆土完了		●						
10m×10m×1m	50cm厚の覆土完了		●							
50万～100万 ・容器の表面線量 率は約 115～230 μSv/h *2	2m×2m×1m	側面を逐次遮へい							●	
		50cm厚の覆土完了		●						